



ミンガラバー

こんにちは

NPO法人
日本・ミャンマー
医療人材育成支援協会

〒700-0811 岡山県岡山市
番町二丁目6番7号
Tel 086-224-0102
ホームページ <http://www.mjcp.or.jp>

「私とミャンマーの出会い」

岡山大学医学部・歯学部附属病院中央検査部 真治 紀之

私が初めてミャンマーを訪れたのは2002年の1月のことです。

岡田先生と小出先生のミャンマー支援事業にはまだ参加してはいませんでした。岡田先生から東京のボランティア団体が医療器具をチャイントンの病院に贈呈するのでその贈呈式に参加して、今年度贈った機器が無事着いているか、昨年贈った機器がきちんと機能しているか見てきてほしいと

いうことでした。不安もありましたが思い切った行くことにしました。

関西空港をたつてバンコク空港で東京からの3名と合流し、当時の首都ヤンゴンに到着しました。ヤンゴンへと出発しました。チャイントンはシャン州にある黄金の三角地帯の近くの小さな町で、直行便はなくプロペラ機で途中2カ所に寄航しました。

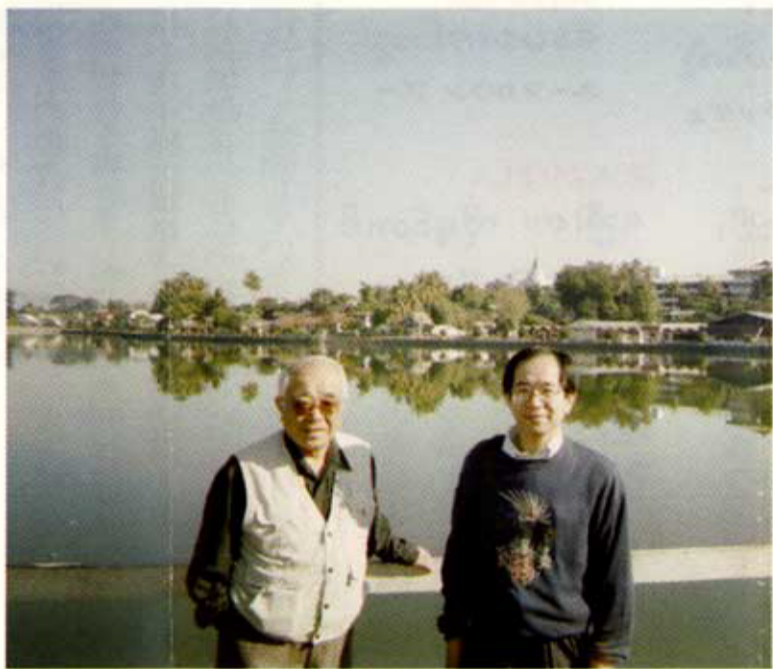


ポリオワクチンの投与をお手伝い(筆者)

チャイントンは小さな湖の周りに広がる小さな町で、チャイントン病院は田舎の町立病院という趣のものでした。設備はお粗末でX線テレビもなく、日本の40年前を思わせる状態でした。輸血はバッグではなく、ガラスの点滴ビンでした。病院の人たちは私たちを歓迎してくださり、贈呈式も無事終了しました。

郊外に新築中の新チャイントン病院とその近くに看護学校があり、その案内もしてくれました。折しもポリオ撲滅キャンペーン中で私たちもワクチン投与のお手伝いをさせていただきました。設備はありませんが、彼らは現代医学の知識はあり、意欲は十分に感じられました。看護学校の講義もすべて英語です。でこぼこの山道をこえて山の中の温泉を案内してもらい、なかなかできない体験をさせてもらいました。

町のどかな中にも市場にはいろいろな部族の人たちが集まって活気がありました。山の上には仏陀の像があり、この地域にも敬虔な仏教徒が多数おりました。ヤンゴンへの帰りは直行便があり、1時間ほどで着いたのですが、ヤンゴンでは当時岡山大学に留学していたサンダさんのご両親に初めてお世話になり、シエダゴンパゴダをはじめヤンゴンの中をいろいろと案内していただきました。



チャイントンのシンボル仏陀の像(右の写真)とナウントン湖の眺め(右が筆者)

はじめて訪れたミャンマーでしたが、人々は私たちに對して非常に暖かく、軍政ということから抱く先入観とはまったく違った、落ち着いた気持ちになれる国でした。その後、私もミャンマーとの共同研究に参加し、何度も訪問するようになったわけですが、「また訪ねてみたい。この国に對して何かしてお役に立てれば。」そういう気持ちになる国だと思います。

自然食バイキングレストラン

やさしさに出逢う店
ティア

福山市神辺町道上街区2-3(フジグラン神辺店前)
TEL 084-963-1905

- LUNCH 11:00~14:00
- SWEETS&TEA 14:00~17:400
- DINNER 17:00~22:00

— NPO 研修生報告 —

岡山で小児心臓病治療を学ぶ

ミャンマー医師 キン・マン・ウー

日本の冬は寒いので風邪を引きそうになります。私の研修内容を報告いたします。私は現在岡山大学病院で小児心臓病について研修しています。毎日朝8時〜9時に行われるCCU(心疾患集中治療室)回診が始まります。手術後の患者の治療方針を討議します。この10ベッドはほとんどが小児の先天性心疾患術後の患者で占められています。

月曜日の9時から12時は診断用心臓カテーテル

の実施(血流の異常短絡を見つめる。心室の圧とか酸素飽和の状態を知る)に加わり、午後の1時〜6時は小児の心臓超音波の研修を行います。夕刻7時以降は心臓病ミーティングを行います。このカンファレンスはたいいていの場合深夜まで続き、帰宅はしばしば翌日になります。このミーティングでは、心臓疾患担当の小児科や外科医師が一緒になって、患者の心エコー(心臓病の超音波診断法)や心臓カ



キン・マン・ウー医師(1965年生)は1990年ヤンゴン医科大学卒業、1995年には修士(小児科)、2000年から2002年に英国留学の経験を持つ。ミャンマー保健省の推薦を得て、昨年の10月末より6ヶ月の予定で心臓病の診断学の研修目的で来岡。現在、岡山大学病院循環器内科の大江教授、赤木助教授の下で研修中。2007年1月に厚生労働省より外国医師臨床修練許可を得ている。

テーテルの結果について検討し、治療方針を討論します。即ち、全治を目指した手術、姑息的手術(全治手術が無理な場合に患者の生活の質を基本とした手術)、治療のカテーテル法、あるいは内科的治療のどれが最もひとり一人の患者に適しているのか決

めるのです。火曜日の9時から12時は診断用心臓カテーテルの実施、午後1時から6時までには、治療のカテーテルを実施します。これは、心房中隔欠損とか動脈管開存の開口部を、カテーテルを用いて塞ぐものです。水曜日の午前中も診断用心

臓カテーテルを実施します。午後1時から6時までには、不整脈治療のための生理検査を行います。この検査の結果により、カテーテルによる異常な心臓内電流を遮断するとか、ペースメーカーや埋め込み式の除細動器の取り付けなどの方針が決まります。木曜日の午前中は小児の心臓超音波診断を行います。午後は夕方まで、成人の心臓超音波診断です。金曜日の午前は研究の時間に充てています。これまでに2名の患者についての症例報告を書きました。今は心房中隔欠損患者の開口部閉鎖後の心筋の活動について勉強しています。



皆さんに簡単なミャンマー語をご紹介します。発音は日本語とかなり違ったイメージですが、「名前」が「ナーメー」なんて、よく似たものもあります。機会があったら、勉強して見て下さい。

Language learning section with Burmese text and Japanese translations. Includes phrases like 'こんにちは', 'ありがとうございます', 'はい', 'いいえ', etc., with a small owl illustration.

た報室から... 出番を間違えた冬將軍の時ならぬ大活躍に、ウグイスも桜も大慌ての日々が続いています。みなさんお元気でお過ごしでしょうか。私たちのNPO法人も、お陰さまで設立一周年を迎えました。昨年は6人の

研修生を迎え入れることができました。南国育ちの研修生たちにとって、日本の冬の寒さが気がかりでしたが、今年は稀に見る暖冬。彼らには思わぬ「天からの贈り物」になりました。私たちが8月と今年1月の2回、現地を訪問する機会を得、多くの会員がミャンマーの現状を学びました。世界最貧国のひとつに挙げられ、民間療法から近代医学への転換を図るために、一生涯命取り組む医師や医学生。何でも吸収しようとする真摯な姿は、欧米に迫いつくことを

その為のデータ集め、統計的な計算、書き込みなどを行っています。午後夕方までは、再び診断用心臓カテーテルに従事します。残り少ない日本滞在ですが、皆様の援助に感謝しながら一生涯命研修に励みます。また、別の機会に日本で研修したことについて報告させていただきます。 ※次号では、モモ、ムム、ミン、サンター、エイエイルエンさんのレポートを紹介します。

野崎明司法書士事務所 (Nozaki Aki Shohosha) advertisement. Includes contact info (tel: 086-273-2225), staff list (野崎明, 中谷清子, etc.), and a map of the office location in Takahashi City.